

「建設業における労働災害防止講習会」の開催について  
－労働災害防止と熱中症予防対策－

大垣労働基準監督署(署長 松宮 利光)は、下記により管内の建設事業者に対して「建設業における労働災害防止講習会」を開催します。

当署管内(大垣市、海津市、安八郡、不破郡、養老郡、揖斐郡)の6月末現在における休業4日以上の労働災害発生状況は、全産業で175件となっており、前年同時期比で20.7%増加しています。

特に建設業においては、平成21年に各業種が10%以上の大幅な減少となるなかにあつて、小幅な減少(3.1%減)に止まっており、平成22年に入ってから、昨年の減少率を帳消しにする大幅な増加(6月末現在35.0%増)となっています。5月には、ずい道(トンネル)掘削工事において、死亡災害が発生するとともに、死亡災害には至らないものの、足場や脚立等の高所からの墜落災害が発生しており、建設現場において安全活動が低調となっていることが懸念されます。

こうした状況から、作業環境が厳しい中での熱中症の発生や、集中力の低下等による災害の多発が懸念される夏場における災害防止対策の徹底を図り、建設現場における安全活動の充実と安全意識の向上を目的として、日頃、安全講習会等の機会の少ない業界団体等に所属していない建設事業者を中心として、安全講習会を開催することとしたものです。

記

- 1 日 時…平成22年7月29日(木) 14:00～16:00
- 2 場 所…サンワーク大垣 視聴覚研修室
- 3 内 容…災害発生状況と災害防止対策  
建設現場のリスクアセスメント導入  
改正労働安全衛生規則(足場等)  
熱中症予防

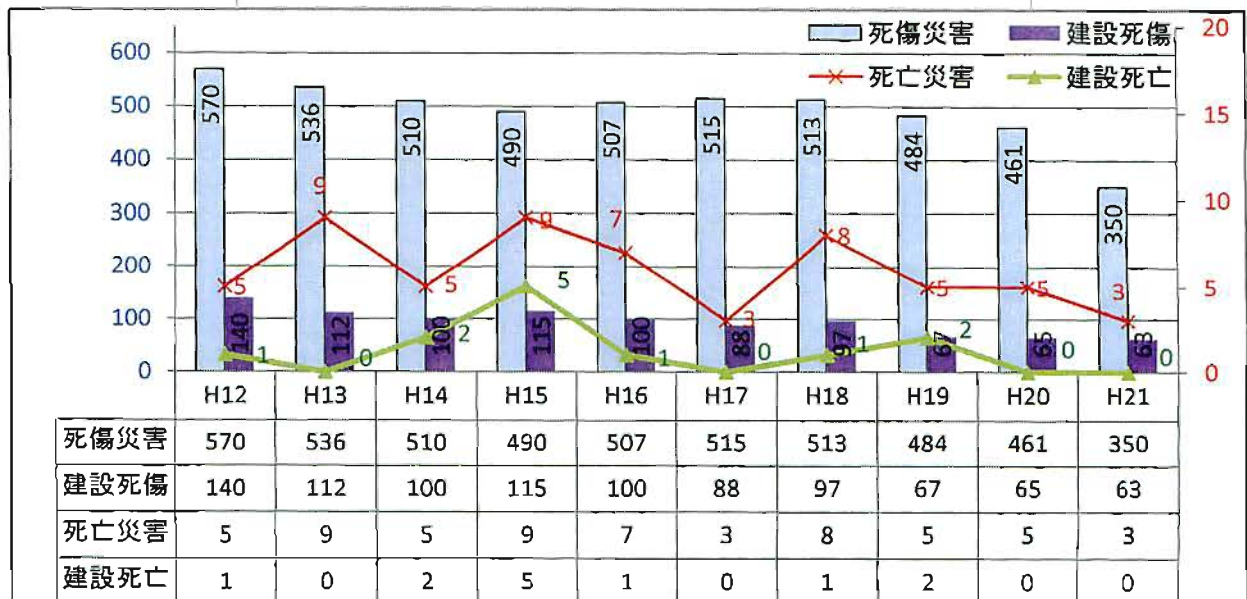
## 業種別労働災害発生状況（大垣監督署管内）

	平成22年		平成21年		増減数	増減率	構成比
<b>全産業</b>	<b>175</b>	<b>(2)</b>	<b>145</b>	<b>(1)</b>	<b>30</b>	<b>20.7%</b>	<b>100%</b>
<b>製造業</b>	<b>67</b>		<b>51</b>		<b>16</b>	<b>31.4%</b>	<b>38.3%</b>
うち食料品	13		5		8	160.0%	7.4%
うち繊維工業	2		1		1	100.0%	1.1%
うち化学工業	10		7		3	42.9%	5.7%
うち窯業土石	8		3		5	166.7%	4.6%
うち機械金属	20		21		-1	-4.8%	11.4%
<b>建設業</b>	<b>27</b>	<b>(1)</b>	<b>20</b>		<b>7</b>	<b>35.0%</b>	<b>15.4%</b>
土木工事業	9	(1)	6		3	50.0%	5.1%
建築工事業	12		12		0	0.0%	6.9%
うち木造建築	1		5		-4	-80.0%	0.6%
その他建築	6		2		4	200.0%	3.4%
<b>運送業</b>	<b>21</b>	<b>(1)</b>	<b>18</b>	<b>(1)</b>	<b>3</b>	<b>16.7%</b>	<b>12.0%</b>
<b>林業</b>	<b>4</b>		<b>5</b>		<b>-1</b>	<b>-20.0%</b>	<b>2.3%</b>
<b>卸・小売業</b>	<b>18</b>		<b>23</b>		<b>-5</b>	<b>-21.7%</b>	<b>10.3%</b>
<b>保健衛生業</b>	<b>8</b>		<b>5</b>		<b>3</b>	<b>60.0%</b>	<b>4.6%</b>
<b>清掃・と畜</b>	<b>3</b>		<b>6</b>		<b>-3</b>	<b>-50.0%</b>	<b>1.7%</b>
<b>上記以外</b>	<b>27</b>		<b>17</b>		<b>10</b>	<b>58.8%</b>	<b>15.4%</b>

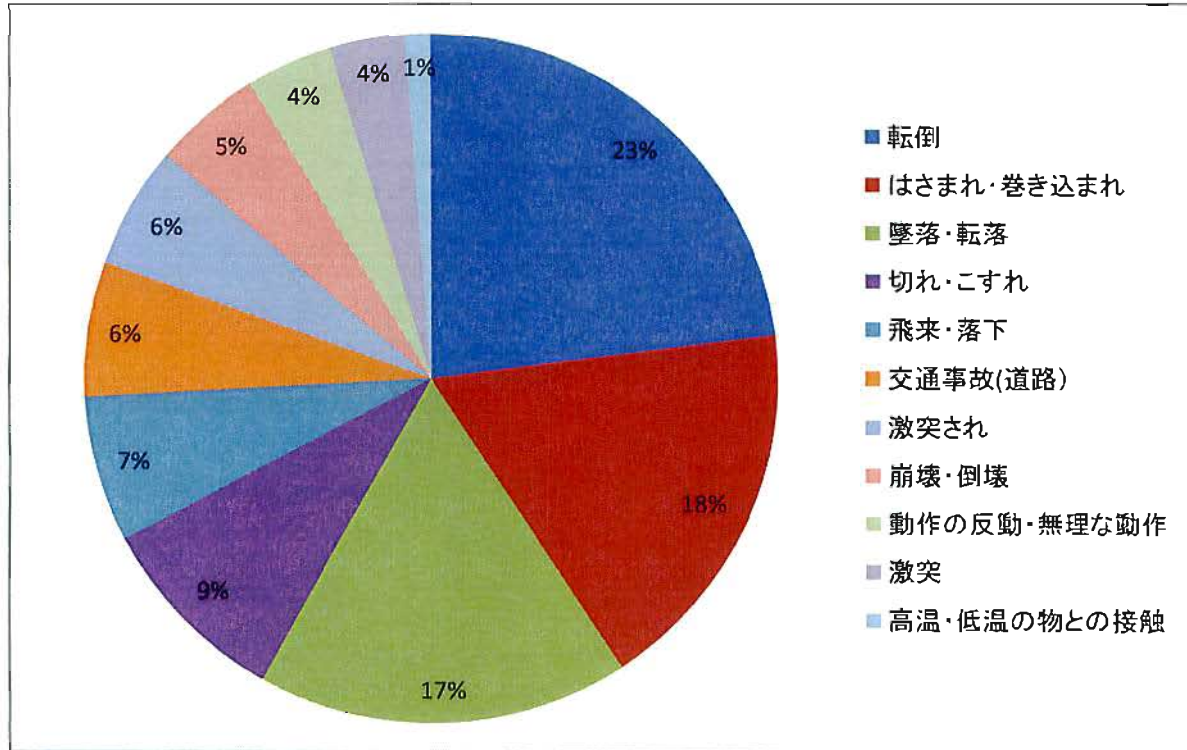
※ 本統計は、平成22年5月末日までに労働者死傷病報告により報告のあった休業4日以上死傷災害を集計したもので、かっこ内の数は死亡災害を内数で示したものです。

構成比は小数第2位を四捨五入しているため、各業種の合計が100%にならない場合があります。

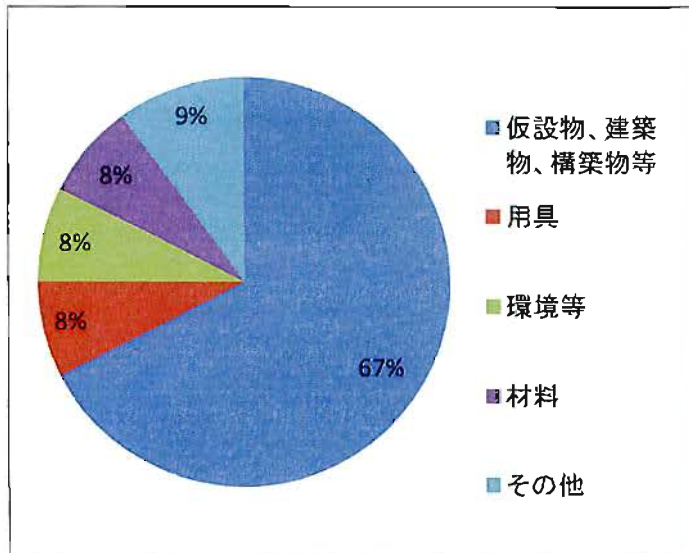
### 年別労働災害発生状況（大垣監督署管内）



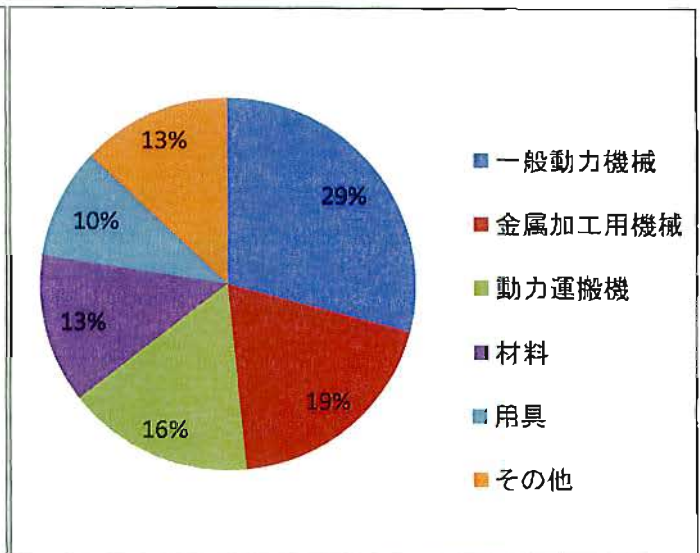
### 型別災害発生状況(全産業)



### 起因物別災害発生状況(全産業) (転倒)



### 起因物別災害発生状況(全産業) (はさまれ・巻き込まれ)

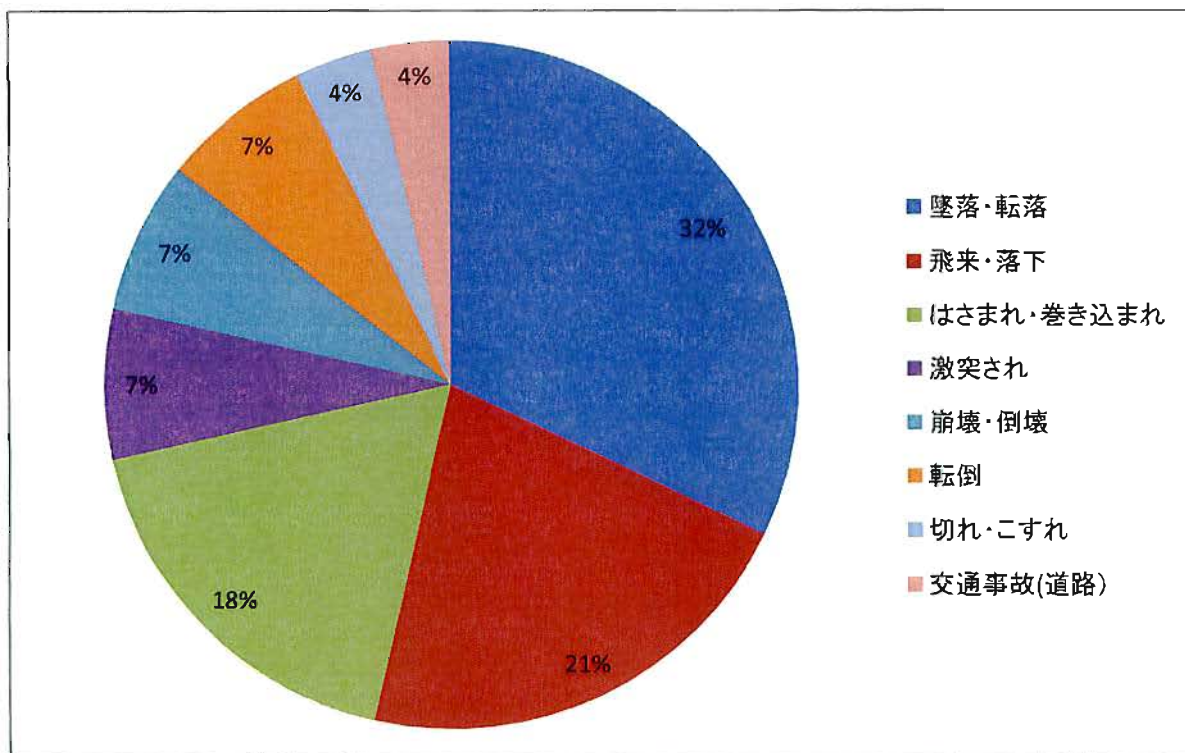


起因物は、具体的には次のような物である。

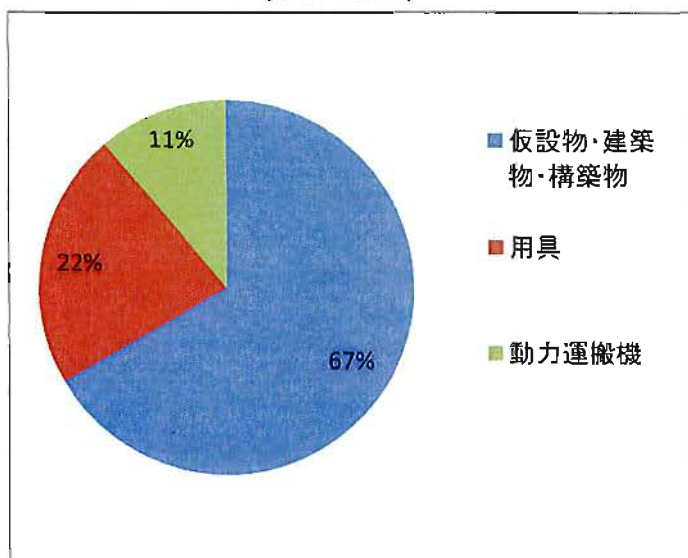
仮設物・建築物・構築物等  
用具  
環境等  
乗物  
一般動力機械  
金属加工用機械  
動力運搬機  
材料

通路、階段、作業床、足場など  
はしご、脚立、玉掛用ロープなど  
地山、岩石、立木など  
乗用車、バス、バイクなど  
混合機、粉碎機、ロール機、射出成形機、食品加工用機械など  
旋盤、研削盤、プレス機械など  
トラック、フォークリフト、コンベアなど  
金属材料、木材、石、砂、砂利など

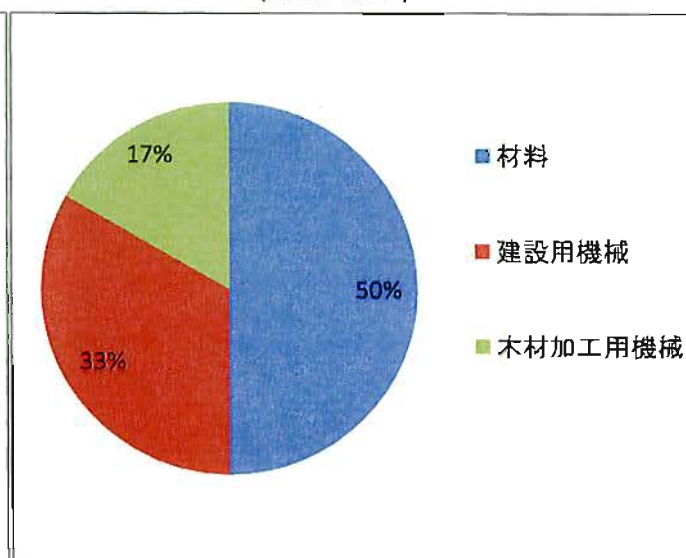
### 型別災害発生状況(建設業)



### 起因物別災害発生状況(建設業) (墜落・転落)



### 起因物別災害発生状況(建設業) (飛来・落下)



起因物は、具体的には次のような物である。

仮設物・建築物・構築物等

用具

動力運搬機

材料

建設用機械

木材加工用機械

通路、階段、作業床、足場など

はしご、脚立、玉掛用ロープなど

トラック、フォークリフト、コンベアなど

金属材料、木材、石、砂、砂利など

ブルドーザー、ドラグ・ショベル、くい打機、タイヤ・ローラー、ブレーカなど

丸のこ盤、帯のこ盤、かんな盤、チェーンソーなど

## 平成22年 岐阜県内の建設業における死亡災害発生状況(速報)

番号	災害発生月	業種	性別	職種	年齢層	災害発生の概要 (概要の内容は、同種災害防止の見地等から編集を加えています。)	事故の型	起因物
1	1月	機械器具設置 工事業	男性	作業 者	50代	配線工事のため、2階建て民家の1階屋根にはしごで移動していたところ、滑り落ち、コンクリート張りの犬走りに頭を強打したもの。	墜落、 転落	はしご等
2	2月	道路建設工 業	男性	作業 者	50代	片側一車線道路の中央分離帯で測量を行っていたところ、車道から外れた乗用車に激突されたもの。	(交通事 故 - 道路事 故)	乗用車
3	3月	土木工 業	男性	作業 者	30代	水道工事のため、長さ8m、幅5m、深さ5.5mの穴を掘って3名で配管取替作業を行っていたところ、掘削面が崩壊して生き埋めになり、1名が死亡したもの。	崩壊、 倒壊	地山
4	5月	トンネル建 設 工事業	男性	トン ネル 作 業 者	20代	トンネル工事現場において、発破作業後に切羽内で作業中、切羽が肌落ちし、崩れた岩石が被災者に当たったもの。	崩壊、 倒壊	岩石
5	5月	その 他 の 建 設 業	男性	解 体 工	50代	換気が不十分な箇所で、照明電源用に内燃機関を有する発電機2台が設置されていた。昼休みのため、被災者が発電機のエンジンを切りに行ったまま戻ってこないため、他の作業員が見に行ったところ、倒れている被災者を発見したもの。	有 害 物 接 触 等 の	一 化 炭 素

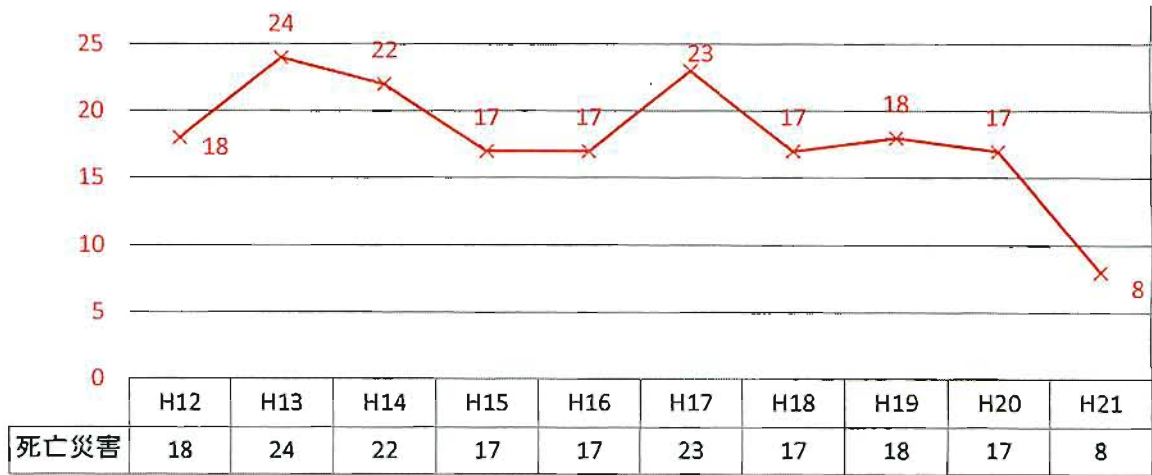
## 平成22年 大垣監督署管内における死亡災害発生状況(速報)

番号	災害発生月	業種	性別	職種	年齢層	災害発生の概要 (概要の内容は、同種災害防止の見地等から編集を加えています。)	事故の型	起因物
1	4月	道路貨物運 送 事業	男性	運 転 者	50代	大型トラックを運転して国道を走行中、センターラインをはみ出した対向車(大型トラック)が、別の大型トラック及び乗用車と接触した後、被災者が運転する大型トラックに正面衝突したもの。	(交通事 故 - 道路事 故)	トラ ック
2	5月	トンネル建 設 工事業	男性	トン ネル 作 業 者	20代	トンネル工事現場において、発破作業後に切羽内で作業中、切羽が肌落ちし、崩れた岩石が被災者に当たったもの。	崩壊、 倒壊	岩石

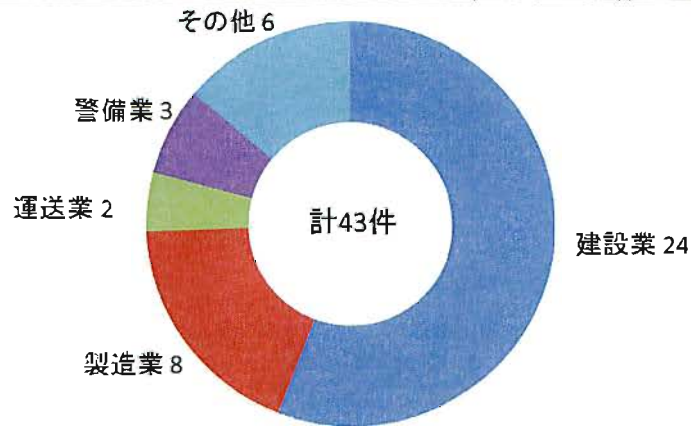
※  は、大垣監督署管内で発生した建設業における死亡災害で同一災害です。

# 熱中症災害統計

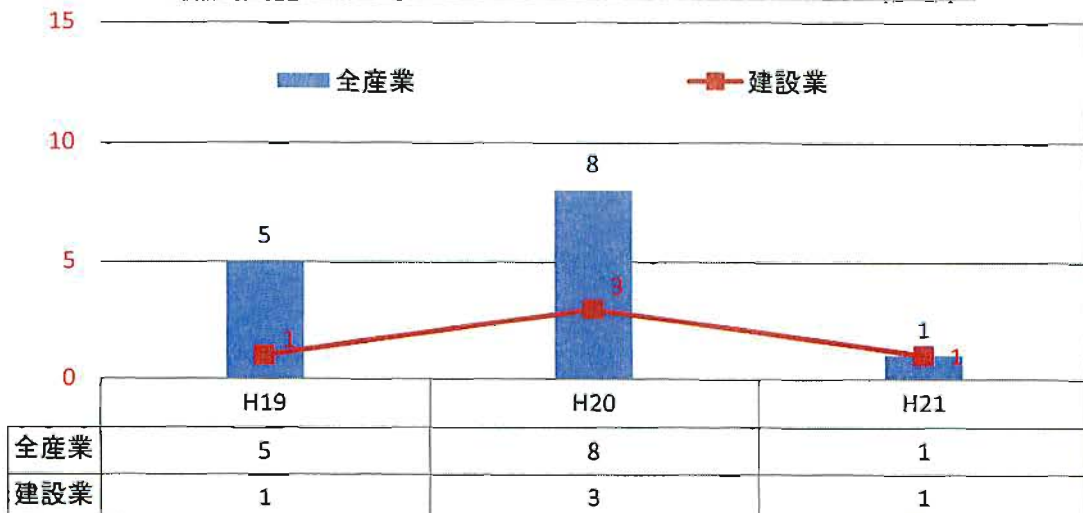
熱中症による死亡災害発生件数(全国)



業種別熱中症死亡災害発生状況(全国:平成19~21年分)



大垣監督署管内の熱中症発生状況(平成19~21年分)



※ 労災保険療養給付請求データによる集計